

廃校跡地利用 他の学校は？

◆旧上伊佐野小学校が郷土資料館になる

平成二十四年の四月、郷土資料館として生まれ変わる旧上伊佐野小学校。

文化・芸術・伝統という

切り口で矢板市の移り変わりを紹介する役目を担うため、現在はフルオープンに向けて準備の真っ最中だ。ただし、小学生向けに一部公開されており、授業の一環として利用されている。

また七月二十三日には矢板市文化財愛護協会主催の「ドキドキ土器づくり体験」という体験型のイベントも行われた。フルオープンに向けて市内の方々から「足踏みミシン」「戦前の教科書」「真空管ラジオ」などの貴重な資料の寄付があり、展示物も充実してきている。

また多目的室(ギヤラリー)では、郷土に関連した展示会や企画展などを行えるの

で、市民の方々の交流や学習の場になるのではなからうか。入場は無料。

◆旧日新小学校は多目的グラウンドに！

文化・芸術・伝統の旧上伊佐野小学校とは対象に、旧日新小学校ではスポーツを通して市民の交流や健康づくりをすすめるようとしている。

校舎の跡地と校庭とを合わせてできた広さ約5,000㎡の敷地は、多目的グラウンドとして利用されている。

芝生が生えたグラウンドでは主にゴルフが行われ、お年寄りや心身よく汗を流している。



子どもと高齢者が一緒にグラウンド・ゴルフを！

している。申請すればサッカーや野球も可能だ。(ただしゴールやバックネットなどの設備はない) 体育館は震災の影響で一部修理が必要のため現在は利用できないが、修理後はバレーボールなど室内スポーツも使用するのは有料。(K)

新連載 【矢板の誇り】 おらがまちの芸術家

館ノ川の高橋庸(いさお)

さん(日本水彩画会正会員68歳)は、毎年、日本水彩画展に情熱をかけて出展しているとともに、毎月三回矢板市民館で「水彩画の普及」を開催し、水彩画の普及と向上に力を注いでいます。恩師の絵も含め、多くの作品を展示したアトリエを兼ねた部屋で、水彩画の魅力についてお伺いしました。

●水彩画を始められたきっかけは？

市役所に勤務し、仕事で矢板小学校を訪れたとき、私が川崎小学校五年、六年生ときの担任だった野中正一先生と再会しました。

●絵を描くことは難しく思いますが？

人は誰でも絵心はあります。感動する光景を自分の思いのまま描けばよいのです。特に子供の感性は素晴らしいものがあり、その感性に基づいて描くことが大切なことです。絵を教えるときも、ここはこうしなさいとは言わないようにしています。ただし、色について迷った場合は教えることもあります。このことは、子供の教育の在り方にも通じるのではないかと

感動を全身全霊でキャンパスに 恩師との出会いが水彩画を描くきっかけ

●作風に大きな変化がみられますか？

水彩画を描き始めて数年後、仲間と出かけた奈良の風景を、見たままいっばい咲いていた曼珠沙華とともに描いて、展覧会に出しました。しかし、心の中に、ありのままの風景を描くことで良いのか、歴史と伝統のある本当の奈良を描けていないのではないかと疑問を感じ始め、翌年の展覧会には、旅して得た感性のままに、奈良の風景に古代の出土品も交えて描いたところ、自分自身満足感に満ち、また、古墳の壁画を描いていた牛尾弘先生(日本水彩画会理事)の影響も受け、「古代幻想シリーズ」描き始めて、今でも多く描いています。

●今後どのような水彩画を描きたいですか？

また、初心に帰って、自分が感動する自然の風景にも出会い、それを描きたい思いが出てきています。絵を通じ、人々にも感動を与えることができるような絵を今後も描き続けたいと思っています。(H)

ボランティア活動の拠点に、きずな館を使おう！

旧法務局の跡地を利用してオープンしたきずな館。二階は、大、中、小の会議室、談話コーナー、印刷室、給湯室もあり、市民活動やボランティア活動には無料で貸し出されます。(印刷は用紙持参で確認が必要) かわら版の編集会議も時々利用させていただいています。

社協では積極的な利用を呼びかけています。ぜひ一度ご利用を！
TEL・44・3000



編集後記 今回は、大地震で被災された方々に支援活動されている、個人やグループの活動内容を取り上げました。ほかにもまだまだ多くの方が支援活動に携わっているかと思えます。お疲れさま、そして、ありがとうございます。いろいろな分野で市民力が発揮されています。